

大人の  
ための  
歯科講座

「歯科治療の新潮流」

＝⑦＝

入れ歯は歯を失った部分(欠損部という)に人工歯で回復させる治療です。入れ歯がなじむか、なじまないかは個人的な感受性も影響しますが、欠損部がどのくらいかというところが複雑に影響してきます。

欠損部の相手とは例えは右下の奥歯を失った場合の右上の奥歯の状況のことです。右

要なバネを強固にしたり、数を増やしたりする必要がありま

うるとバネがかかっている、自身の歯にも負荷がかかっています。欠損形態としては中間欠損か端の歯を失った遊離端欠損でも全く違います。中間欠損の方が入れ歯は安定します。遊離端欠損は最後方の人工歯に負荷がかかると入れ歯を転覆させ不安定になります。

このように一言で入れ歯といても歯の失

れ歯といっても歯の失

い方で安定しやすいの

か、難しいのは14本前

てきます。欠損様式に

よっては、1歯、2歯の少

数で、ほとんどの無

歯顎では比較的治疗は

簡単です。

14本前後の残存ケ

スでは残っている歯の

処置や噛み合わせの位

置のずれなど、問題が

複雑になり、その残っ

た歯が入れ歯の不安定

要素になりえるので

す。また欠損の進行過

程にあるた

め、たとえ

インプラ

ントにより咬

合崩壊を食

い止めたど

しても、長

期経過を慎

重にみてい

く必要があ

ります。

入れ歯かインプラントか

満足度を左右する  
複雑で多様な要因

上がご自身の歯か入れ歯かインプラントかで、右下に入れ歯を入れた場合の入れ歯の対する力のかかり方は全く違います。

入れ歯に比べては相手が入れ歯である

入る歯が安定しやすいです。ご自身の歯やインプラントの人工歯が相手だと力が強すぎて、入れ歯に大きな負荷がかかります。その負荷は入れ歯の下の粘膜や骨にまで影響し、また入れ歯を不安定にします。

そしてその力に対抗できるようにするために、入れ歯の安定に必



残存歯数が12歯ですれ違いの咬合。咬む位置が不安定で、欠損部の相手(下の前歯、上の左右奥歯)が強く、義歯には相当の負荷がかかる。治療後も義歯の破折などトラブルが起きやすいケース



遊離端欠損 中間欠損

遊離端欠損では最後方の人工歯に力がかかるとテコの原理で義歯が転覆してしまう。それに抵抗するためにはバネを強固にしたり、数を増やす必要が比較的安全です。

ルースデンタルクリニック  
名古屋市中区牛島町1-1-1  
3階、電話 052-850-8505  
L 55、UR 55、www.lruent-dc.com